科目名	17．生活行動からみるからだⅠ 物質の流通				
履修年次	１年次	科目区分	専門基礎分野	単位数 (時間)	１単位 （30時間）
ディプロマポリシー(DP)	☑ 人を大切にするこころ □ 現象を適切に把握し地域で生活する人を支える看護実践力 □ チームの中で連携・協働するための力 □ 専門職業人として自己研鑽する力				
科目目標	人が生きていくために必要な物質の流通システムを理解することができる				
到達目標	自分のからだに関心をもちながら、生きるために必要な酸素の取り込みから運搬までのしくみを表現することができる				
評価方法	筆記試験（100点）				
使用 テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　人体の構造と機能①　医学書院 看護形態機能学　生活行動からみるからだ　日本看護協会出版会				
参考文献					
教育方法と学生への期待 (求めること)	看護の対象である人間のからだがどのようなつくり（形や働き）になっているのかは看護学にとって最も基本的な知識の一つである。からだの知識は、病気の理解、病気等による生活行動への影響の理解、看護援助につながっていくので、しっかり身につけていって欲しい。 ここでは、ひとが生きていくために必要な物質の流通システムがどのように働いているのかを理解する。代謝に必要な材料を運び、代謝産物を流通させて内部環境を一定範囲内に保つための流通の媒体(血液)、流通路(血管・リンパ管)、流通の原動力(心臓)、流通してエネルギーを作り出す元になる(息をする)を設定する。 講義で人間のからだがどのようなつくり（形や構造、働き）になっているのかを理解する。そのためには自己学習が必要不可欠である。得た知識を使える知識に（生活行動からからだの働きを理解する）なるように努めて欲しい。				

回	学習項目	学習内容	授業方法
1	息をする	呼吸器の構造	講義
2	息を吸う・息を吐く①	気道・肺胞の機能 呼吸のメカニズム 呼吸筋	講義
3	息を吸う・息を吐く②	呼吸筋 呼吸運動の神経支配	講義
4	息を吸う・息を吐く③	呼吸気量 ガス交換(外呼吸と内呼吸)	講義

5	息を吸う・息を吐く④	ガス運搬 肺の循環と血流	講義
6	物質流通の媒体①	血液の成分と機能 酸素・二酸化炭素の運搬(赤血球) ホルモンなどの運搬(血漿タンパク質)	講義
7	物質流通の媒体②	侵入物に対する防衛(白血球) 血液凝固とその溶解(血小板) 血液型	講義
8	物質の流通路①	血管の構造 肺をめぐる血管 脳をめぐる血管	講義
9	物質の流通路②	体の各部をめぐる血管 リンパとリンパ管	講義
10	血液を送り出すポンプ	循環器系の構成(回路) 心臓の構造 心臓を栄養する血管	講義
11	血液を送り出すポンプのしくみ①	心臓の興奮とその伝播 心臓の興奮と伝播の記録(心電図)	講義
12	血液を送り出すポンプのしくみ②	血液の動脈内への拍出（心臓の収縮）	講義
13	血液を送り出す力	血圧と血流の循環 血圧・血流量の調節	講義
14	息を吸う・息を吐く	人はどのように呼吸をしている？	演習
15	物質の流通	人はどうやって血液を巡らせている？	演習